

着実な開通への取り組み

■震災復旧事業等との競合



物資輸送で混雑する山元IC付近(県道角田山下線)

東日本大震災以降、東北地方の被災3県においては、震災復旧及び震災復興事業が進められました。

そのため、常磐道の建設を行う福島県・宮城県沿岸部において、海岸部の防潮堤事業・道路復旧事業等、震災復旧事業の工事用車両が国道6号や県道に集中し、渋滞が発生しています。

常磐道の建設にあたり、本線内工事用道路を積極的使用することや、他の事業者と調整し渋滞の緩和を図るとともに、工程の確保に努めました。

■資機材の確保



ストックヤード(相馬港)

震災復旧・復興事業により、多くの資材が必要となっています。そのため、常磐道の整備工事で使用するコンクリート・舗装用砕石等の調達が困難となりました。

舗装用砕石については、静岡県や三重県から船舶により運搬し、相馬港にストックヤードを設けて必要な資材を確保しました。

また、沿線住民の方に舗装用材料の運搬時間の延長について協議し了解をえられたことから、通常より長い作業時間を確保しました。

コンクリートについては、あらかじめ施工日を生コン工場と調整し出荷日を決めることで確実な進捗を図りました。また、生コン運搬車も不足していることから常磐道整備工事専用生コン車を手配し、供給体制を確保しました。